

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------------|--------|--------------|
| ○事業所名 | 児童支援センター さんぼ（椽保） | | |
| ○保護者評価実施期間 | R7年 12月 1日 | | ～ R8年 1月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) 11名 | (回答者数) | 8名 |
| ○従業者評価実施期間 | R7年 12月 1日 | | ～ R8年 1月 31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) 2名 | (回答者数) | 2名 |
| ○訪問先施設評価実施期間 | R7年 12月 1日 | | ～ R8年 1月 31日 |
| ○訪問先施設評価有効回答数 | (対象者数) 11名 | (回答者数) | 7名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | R8年 3月 10日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 看護師・保育士・作業療法士が在籍しているため、子どもの発達特性や生活面、健康面を踏まえた多職種の視点から支援方法や関わり方の助言、家族支援を行うことができる。医療的ケア児等については看護師と連携しながら支援を検討できる体制があり、必要に応じて医療的視点からの助言を行うことができる。 | 訪問時には子どもの様子を丁寧に観察し、多職種の視点から発達特性や生活面、健康面を踏まえた助言を行っている。また保護者および訪問先施設の許可が得られた場合は、プライバシーに配慮しながら写真や動画を記録し、支援内容が分かりやすいように工夫している。 | 多職種の専門性を生かした支援が行えるよう、職員間で情報の共有や研修などを行い、専門的な知識や支援技術の向上に努めていく。 |
| 2 | 児童発達支援事業所の併設しており、同法人内に相談支援事業所や他の児童発達支援事業所もあるため、関係機関との情報共有や連携を密に行うことができる体制となっている。 | 同法人内の相談支援事業所や児童発達支援事業所と日頃から情報共有を行い、子どもの状況や支援内容についての連携や訪問の様子についても速やかに情報共有している。 | 関係機関との連携を継続しながら、子どもの状況に応じた支援方法を検討し、地域で安心して生活できるよう支援体制の充実を図っていく。 |
| 3 | 訪問対象児の多くが同法人の事業所を利用しているため、日頃から情報共有を行うことができるため、子どもの状況を踏まえた支援を迅速に検討することができる。 | 訪問対象児の多くが同法人の事業所を利用しているため、日頃から子どもと関わり、日々の様子を共有しているため、療育での実際の様子を訪問施設に共有したり、訪問の様子を迅速に支援に生かせるよう工夫している。 | 訪問先施設や関係機関との情報共有を継続しながら、子どもの状況に応じた支援が円滑に行えるよう体制の充実を図っていく。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 訪問支援は園での集団生活の中で実施するため、療育機関のように直接的な個別支援を十分に行うことが難しい場合がある。 | 訪問支援は訪問先施設の生活の流れの中で実施しているため、対象児以外にも配慮が必要である。このため療育施設のように個別の環境設定や個別支援の時間を十分に確保することが難しい場合がある。また訪問先施設的环境や集団活動を優先にするため、支援内容にも配慮が必要である。 | 訪問先施設の活動の流れや環境を踏まえながら、無理のない範囲で環境調整や関わり方の助言を行い、集団生活の中でも子どもが安心して過ごせるような支援方法を共有できるよう努めていく。 |
| 2 | 訪問先施設の状況に合わせた訪問のため、訪問先施設の職員と十分な時間を確保し話し合いを行うことが難しい場合がある。 | 訪問支援では訪問先施設の保育業務が優先されるため、訪問時に職員と十分な時間を確保して話し合いや支援内容の共有が難しい場合がある。 | 訪問時の短時間での状況共有に加え、書面での報告、要望や必要に応じて電話や別時間に訪問し支援内容を共有できるよう工夫していく。 |
| 3 | 職員数が限られているため、訪問支援の実施回数や対応できる範囲に限りがある。 | 個別支援に対応できる職員数が限られているため、訪問支援の実施回数や対応できる範囲に制限が生じる場合がある。また訪問先施設との日程調整が必要なため、訪問支援の実施までに時間を要することがある。 | 訪問対象児の状況に応じて優先度を検討しながら訪問支援を実施し、関係機関との連携や情報共有を行うことで効果的な支援につなげていくよう努める。 |